

社会工学類

学生の確保 (人)	年次		定員	志願者	受験者	合格者	入学者	
	1年次		120 ※－ (120)	419 ※8 (427)	419 ※8 (441)	140 ※1 (141)	131 ※1 (132)	
	編入学・再入学		若干名 ※－ (若干名)	14 ※－ (14)	14 ※－ (14)	6 ※－ (6)	5 ※－ (5)	
学生の進路 (人)	卒業生	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他
			企業	教員	公務員			
	137 ※－ (143)	66 ※－ (64)	61 ※－ (58)	1 ※－ (－)	4 ※－ (6)	－ ※－ (－)	52 ※－ (66)	19 ※－ (13)

・ () は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1 社会工学類の活動

〔教育〕

・教育目標とこれまでの取り組み

社会工学類の教育目標は、社会システムの諸側面を考慮した複眼的アプローチを身に付け、問題発見、分析、調整、実施能力の獲得と向上を計るためのトレーニングを行うことである。社会システムは、社会基盤領域、その上のビジネス領域、それらの前提や結果である経済的現象や制度の領域という階層構造を持ちながらも、互いに強い関連を持っている。したがって、これからの社会システムの構造と運営を広く自由に発想するために、一段抽象化して分析設計方法の数理論理的構造を理解することも重要である。

3年次から社会経済システム、経営工学、都市計画の主専攻に分かれ、より各領域に重心をおいた教育を行っている。

平成16年度から社会工学類の新カリキュラム実施が始まるのに伴い、平成17年度以降は専攻所属時期を早めることとし、2年次から主専攻に分かれる。

・教育課程への新たなチャレンジと改善方策

社会システムの発展がいよいよ多様性・複雑性と相互依存性を増し、社会システムの中での人間の生活を充実させるしくみへの要求が高度化している。社会工学類では複合的で統合的なカリキュラム提供による高度人材の育成サービス機能の向上を図るために、平成14年度にカリキュラム戦略検討タスクフォースを設置して学類教育サービスの内容改革を行った。その結果として平成16年度開始の新カリキュラムでは、主専攻所属を2年次としたこと、学生が希望する主専攻へ必ず所属できるようにしたこと、各専攻ごとのエリア(科目群)と専攻を超えた学際的エリアとからなるエリア制カリキュラムを開発したこと、都市計画と経営工学の両専攻のインターンシップ強化などを実現している。

〔学生生活〕

・学生指導体制

クラス担任教員をおいて学生との接点とする活動は従来通り機能している。クラス連絡会については、平成15年度は2回実施した。社会工学類が独自に行っている授業評価アンケートを学期途中に実施すべきとの意見、授業評価結果を公表した方が学生を巻き込むためには有効であるといった意見等が出された。

また、単位取得が進んでいない学生に対して、平成15年度1学期終了後の単位取得状況によって判断して、クラス担任・卒研指導教員・学類長室が連携して学生と面談し指導を行った。学生によっては、保証人・保護者とのコミュニケーションが取れていない場合があるので、必要に応じて連絡をとることにした。学生の学習指導や助言の方法として一定の有効性があるので、平成16年度も実施する予定である。

・就職指導

卒業生の就職と大学院進学への傾向は例年と大きな変化はない。昨今の厳しい経済状況に注意しつつ、引き続き十分な就職指導体制をとり必要な指導を行っている。

2 教員の教育業績評価の状況

平成14年度から学生による授業評価を以下のように実施している。

- (1) 社会工学類独自の評価用アンケートを作成した。
- (2) 3年間で全科目の評価が終わるように1年間で1/3の授業が評価される。
- (3) 担当教官へは詳細な評価集計が伝わるが、学類全体へは評価結果の分布を公表する。
- (4) 授業評価実施委員会が運営するとともに、継続的改善を図る。
- (5) 教育の現状と改善に主眼点を置き、教員の業績評価には用いない。

検討課題としては、授業評価の実施時期と評価結果の公表がある。実施時期は学期末だとアンケートに回答する学生自身にとってのメリットがほとんどない。また、詳細な評価結果を講義名を特定した形で公表しないことには、授業評価制度への信頼が損なわれかねない。こうしたことをふまえ、社会工学類では、全ての講義の評価がそろそろ平成16年度末以降評価結果の公表形式について学類として再検討することとした。

3 自己評価と課題

カリキュラム戦略検討タスクフォースは平成15年度に社会工学類の新カリキュラムを完成し、教官は新規科目を設計し、関係事務と協力して学群履修細則として学習規則を定めることができた。今後は日本技術者教育認定制度(JABEE)取得へ向けた体制作りを行うことでさらに社会工学類カリキュラムの意義を高め充実した教育を行っていく予定である。

授業評価は学生にとっても教官にとっても意義があるので、評価結果の公表については今後検討する必要がある。

単位制度の実質化の一環として、従来のシラバスの内容に加えて各科目の予習と復習について記載するようにした。